

平成19年度 地球環境基金からの感謝状贈呈者

発表! 地球環境基金を支えてくださった
平成19年度「最強サポーター」はの方々です!!

(以下、贈呈日順に掲載)



株式会社キッズシティージャパン

(株)キッズシティージャパンは、こども向けの職業・社会体験施設「キッズニア」の企画・運営を行う会社です。同社からは、地球環境基金へのチャリティーを目的に、スポンサー様並びに各協力企業様を対象とした「チャリティ・ゴルフカップ」を開催いただき、その参加費用の一部をご寄付いただきました。(同社のCSR活動については、地球環境基金便り第24号で特集させていただきました。) 贈呈日 平成19年5月28日



株式会社西武百貨店

(株)西武百貨店は、1999年4月に百貨店で初めてISO14001(環境マネジメント規格)を取得し、「次世代に続く豊かな暮らしづくり」の考えのもと、環境に配慮した商品やライフスタイルの提案を推進しています。その一つとして、再生PET100%素材を使用しデザインやカラーにもこだわったマイバッグや、ギフトラッピングにも使える新しいタイプのエコバッグ「ラッピングエコバッグ」を販売し、これらの売り上げの一部をご寄付いただいています。 贈呈日 平成19年6月5日



ギフト包装紙を節約できる新しい考え方。「ラッピングエコバッグ」▶



リコーリース株式会社

リコーリース(株)は、様々な金融サービス事業を提供する会社です。同社では、2003年10月に環境・社会貢献推進室を作り、社員の環境活動を推進。富士山緑化活動などの環境保全にも力を入れています。同社では「マイカーローンキャンペーン」を実施し、リコーグループ社員がハイブリッドカーなどの低公害車を購入した場合、購入額に応じて一定の金額をご寄付いただきました。 贈呈日 平成19年9月27日



株式会社サイバーガジェット

(株)サイバーガジェットは、ゲーム周辺機器の企画・開発・販売をしているメーカーです。各種ゲーム機用にユーザーのニーズに合わせた多種多様なグッズを開発し、特にゲーム攻略ツール「コードフリーク」は、ゲーム初心者から熱心なゲームファンまで愛されているベストセラー商品です。同社からは、ゲーム周辺機器の収益の一部をご寄付いただいています。 贈呈日 平成19年9月27日



日本カートリッジリサイクル工業会

日本カートリッジリサイクル工業会は、トナーカートリッジのリサイクルを推進する企業で構成されています。同工業会では、カートリッジのリユース・リサイクルを目指した独自の活動として、環境ラベル(「トナーカートリッジ・リユースラベル」)を定め、これを広めるための広報・啓発活動を行っています。同工業会からは、この環境ラベルの普及促進に伴う収益の一部をご寄付いただきました。 贈呈日 平成19年10月19日

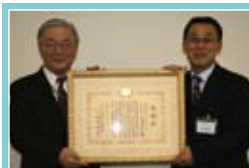


トナーカートリッジ・リユースラベル



株式会社ワイズテーブルコーポレーション

(株)ワイズテーブルコーポレーションは、イタリアン・和食・バーを併設した高級融合レストラン「XEX」を軸に、本格カジュアルイタリアン、チャイニーズ、スイーツなどを通じて、新しい食文化を提供しています。同社からは、「XEX ATAGO GREEN HILLS(ゼックス 愛宕 グリーンヒルズ/東京都港区)」にて、地球環境保全を目的としたチャリティーパーティを開催いただき、その参加費の一部をご寄付いただきました。 贈呈日 平成19年11月7日



株式会社ファミリーマート

(株)ファミリーマートは、「世界の子どもたちと地球の未来のために」活動する民間団体とをつなぐ掛け橋になりたいとの願いを込めて、2006年より「夢の掛け橋募金」の活動を店頭で実施しています。全国約7,200店舗に募金箱を設置し、そこに寄せられた募金の一部と募金額の10%相当額を同社からの上乗せ分として、ご寄付いただいています。(同社のCSR活動については、便り第24号で特集させていただきました。) 贈呈日 平成20年3月12日



株式会社アクセル

(株)アクセルは、グラフィックスLSI製品をはじめとした各種LSI製品の設計開発を行うファブレス半導体メーカーです。同社の社会貢献活動は、「豊かな社会生活の実現」をキーワードに積極的に行われており、平成16年から地球環境基金へのご支援を頂いています。その内容は、毎年の寄付金の拠出や事業所内での募金箱の設置のほか、会社説明会時における地球環境基金の活動紹介パネルの展示など、幅広いご協力を頂いています。 贈呈日 平成20年3月13日



株式会社千葉銀行

(株)千葉銀行からは、「環境保全」を目的とした記念定期預金の販売により、集まった金額の一部をご寄付いただきました。(詳細はP11でご紹介させていただいております) 贈呈日 平成20年3月10日



NPO 法人 国際連合活動支援 クラシックライブ協会

同団体からは、環境ミュージカル等の上演の際に集めた募金などをご寄付いただきました。(詳細はP2~3でご紹介させていただいております) 贈呈日 平成20年3月24日

地球環境基金では、一定額以上のご寄付をいただいた方へ、感謝状を贈呈しています。

感謝状の 贈呈対象者の要件

- 個人 地球環境基金に20万円以上の額の寄付を行った者又は寄付金の累計額が50万円以上の額に達した者
- 団体 地球環境基金に50万円以上の額の寄付を行った者又は寄付金の累計額が100万円以上の額に達した者

「たいせつにします、ひと、みず、みどり。」

株式会社 千葉銀行

平成19年度感謝状贈呈者のうち、株式会社千葉銀行からは「環境定期預金」の募集金額の0.05%相当額を地球環境基金へご寄付いただきました。この定期預金の開発に当たった同行の営業企画部にその舞台裏などのお話を伺いました。

商品化の背景について教えてください。

ちばぎんではこれまで、本来業務である「融資」業務の中で、エコ住宅のローン金利を優遇する環境関連商品などを出していますが、さらに「預金」業務を通じて、何か社会貢献できないか、と考えていました。

初めは他銀行の先行例に倣って、県内の特定地域の環境改善に貢献したら金利を上乗せする定期預金等を検討したのですが、対象やテーマを絞るのに苦慮しました。そこで、千葉県庁へ相談に行ったところ、本年7月の洞爺湖サミットの前段と位置づけられる重要な国際会議「G20」(*)が3月に千葉で開催されることを知ったのです。

ちょうどその頃、県ではこの国際会議のためのプロジェクトチームを立ち上げ、開催PRに力を入れようとしていました。そこで、我々もこの会議の重要性を皆さまに広め、それをきっかけに地球温暖化への取り組みを広めるお手伝



〔環境定期預金販売ポスター〕
この預金で集まった100億円の0.1%が、千葉県内で地域の環境保全活動を支援する基金と、地球規模で環境問題に取り組む地球環境基金へ等分に寄付された。

いできれば、という想いを込めて、「G20」を記念した「環境定期預金」の商品化に乗り出したのです。

社内では「環境」をテーマに掲げた商品で本当にお金が集まるのか?といった意見もありましたが、通常の定期に比べて2倍の利息を付けましたが、なるべく多くの人に参加してもらうため、一人あたり200万円までと比較的小口にしたので、どのように受け入れられるのか、予想が付きませんでした。

*「G20」は2008年は、地球温暖化防止をテーマに、米国・ロシア・日本などG8参加国と、中国・インドなどの新興経済諸国が参加し、CO₂排出量削減と持続可能な社会の構築について話し合った閣僚級会議。(平成20年3月14日〜16日に幕張メッセで開催)

お客さまの反応はいかがでしたか?

いざ販売してみると、おかげさまで2日間ですぐ100億円を上回り、完売となりました。理由の一つとして、マスコミに大きく取り上げていただいたことがあると思います。販売開始前に地元紙はもちろん、NHKや主要な新聞でも好意的に取り上げていただきました。

お客さまのCO₂削減宣言には、環境省の「私のチャレンジ宣言」シートを活用しました。

〔冷房の設定温度を26度から28度にする〕削減量

83gなど、全38項目から実践することを選び、1日1kg超分をチェックして、店頭にご持参いただきました。お客さまからは、このシートを目に付く場所に貼って、具体的な行動とCO₂の削減数値を確認しながら生活するようになった、といううれしいお声もいただいています。

環境定期預金を販売してみて、商品開発担当者としての

ご感想をお聞かせいただけませんか?

そうですね、改めて実感したのが、日頃地域にいらつしやる主婦などの関心の高さです。主婦の方々はごみの問題や、エコバッグの利用、環境問題も含めて地域や社会貢献への意識がものすごく高いですね。だからこそ我々は、こうした方々の胸に届くような、地域色・社会貢献色のある商品の開発や呼びかけの工夫が大切だと感じました。

また、これをきっかけに行員の環境意識も高まり、職員と家族もチャレンジ宣言しました。お客さま、職員とその家族の宣言したCO₂削減量は、合わせて杉が一年間に吸収するCO₂の約37万本に当たる量(*)に相当し、この「環境定期預金」による温暖化防止効果の大きさを実感しています。

*杉のCO₂年間吸収量約14kgによる試算／林野庁資料

環境活動について教えてください。

千葉銀行は「たいせつにします。ひと、みず、みどり」をキャッチフレーズに掲げ(ひと)福祉・教育(みず)水質保全(みどり)緑化を3つの柱に数々の地域貢献活動を行っています。さらに環境活動については「企業として」「金融機関として」「従業員とともに」の3つの柱で展開しています。

「企業として」では、環境関連法令等を守り、省エネ・省資源を進めています。例えば、当行コンビニエンスセンターではインバータシステムの導入などによりCO₂排出量の半減を実現しています。また、来年2月に市原市内に新設予定の支店に太陽光発電システムを導入する予定です。

「金融機関として」では、京都議定書に基づくわが国のCO₂削減目標に寄与できる商品として、カーボンオフセット商品(私募債定期預金)の取扱いを開始しました。

「従業員とともに」では、印旛沼、九十九里浜等、地元千葉県を取り巻く海岸・池沼等の清掃をはじめ、「ちばぎんの森(富津市)の継続的な育樹活動、クルーズの全店での実施、環境省「チーム・マイナス6%」への積極的な参加などを行っています。当行は、地域社会の持続的な発展と環境保全の両立を常に念頭に置きながら、今後も地球温暖化等の環境問題に対して積極的に取り組んでいきます。

株式会社 千葉銀行
頭取 竹山 正



「ちばぎんの森」と名付けた森林2か所にヒノキ7,200本の植樹・育樹(100t/年のCO₂吸収に相当)。環境保全関連基金に寄付や公園等への樹木の寄贈を継続して行っています。